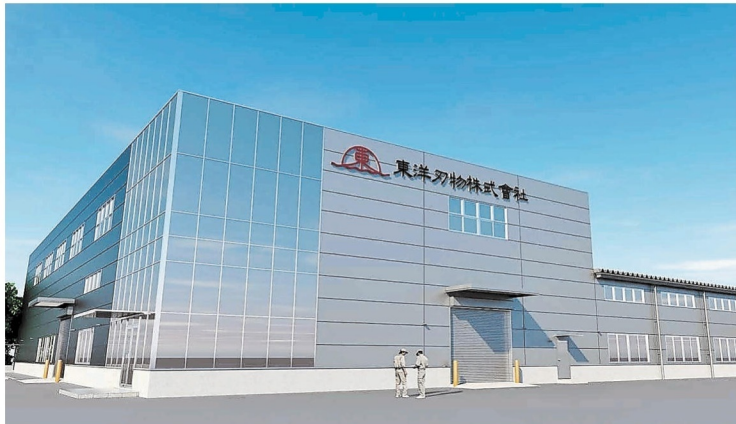


東洋刃物 富谷に新工場

情報産業向け 12月稼働



新工場の完成イメージ (東洋刃物提供)

産業用刃物製造の東洋刃物は12日、富谷市の本社敷地内に建設する新工場の地鎮祭を実施した。5月の着工、12月の稼働開始を予定する。同社の主力製品で、リチウムイオン電池の生産工程などに使われる情報産業用刃物(MS)の増産を図る。

新工場は鉄骨一部2階、延べ床面積約4355平方メートルで、事業費は約11億円。最新の製造設備を導入するほか、工程の自動化に向け、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進も

目指す。11月の完成を見込む。MSは、スマートフォンなど電子機器向けの光学フィルムなどの加工などにも用いられる。第5世代(5G)移動通信システムの普及や、リチウムイオン電池を使う電気自動車(EV)市場の拡大で需要増が期待される。東洋刃物は昨年8月、半

導体関連製品を手がけるフェローテックホールディングス(HD、東京)の完全子会社となった。フェローHDの販売網を生かした海外への供給も見据える。地鎮祭にはフェローHDや富谷市の関係者ら約30人が出席。今年2月に就任した大石純一郎社長はあいさつで、2025年に控える

創立100周年に触れ「伝統を守りつつ新工場を核に新たな挑戦をし、会社を大きく発展させていきたい」と語った。同社の国内工場の新設は、12年に東日本大震災の津波による多賀城工場(多賀城市)の被災などに伴い、富谷工場の生産棟を増設して以来となる。

「世界市場狙い増産」 大石純一郎社長

生産拠点を新設する東洋刃物の大石純一郎社長に事業の展望と抱負を聞いた。

―新工場整備の狙いは。

「主力製品の一つ、情報産業用刃物の増産が大きな目的。電気自動車(EV)の電池や、多様な電子部品の材料加工に使われている。今後も拡大するであろう世界市場を狙っている」

―増産の規模は。

「EV市場は中国などで大幅に拡大していく。電池・電子部品関連の増産に伴い、われわれの事業も必要になる。生産量はかなり増えるだろう。生産の効率化や自動化だけでなく、品質の管理・向上を図るためデジタルトランスフォーメーション(DX)を進める」

親会社フェローテックホールディングス(HD)との相乗効果を図る。

「フェローHDが海外に有する多



インタビューに応じる大石社長

くの営業拠点を活用し、販売網を世界各地に広げたい。主に中国やアジア圏を目指す。欧州の市場も大きいと見ている」

―中国・杭州に2021年、主に情報産業用刃物を生産する子会社を設けた。

「市場規模を日本の3倍以上と見積もっている。(本格生産に向け)日本のメンバーが品質面の指導をしている段階だが、現地拠点を通じて攻略したい」

―25年に創業100周年を迎える。

「大きな売り上げ拡大目標を掲げている。新工場整備もその一環。機械部品の製造にも力を入れる。刃物はもちろん、焼き入れ、研磨技術にも自信がある。事業全体を強化していく」